「ICT を活用した学びの DX 事業」渡島・檜山管内公開研究会

公共　学習指導案

授業者：川邊　智也

１．日時・教室

2023 年２月 13 日　３校時　１年Ａ組　21 名（男子 11 名・女子 10 名）　１Ａ教室

２．使用教材

教科書：数研出版『高等学校　公共　これからの社会について考える』

３．単元名

「課題探究編　持続可能な社会づくりの主体となる私たち」

４．単元の目標

・探究活動を通して日本の社会が抱える課題を見出し、諸資料から目的に応じた情報を適切に収集してまとめる技能を身に付けるとともに、よりよい社会を実現するために必要な考え方を理解することができる。（知識・技能）

・日本の社会の諸課題の解決に向けて、事実を基にして社会的な問題を多面的・多角的に考察する力や、構想したことを議論し、発表する力を養う。

（思考力・判断力・表現力）

・社会を構成する全ての個人が最大限に尊重される社会の形成と維持に向けて、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

（主体的に学習に取り組む態度）

５．単元の指導計画（全９時間）

①題材説明およびアイデア出し	１時間
②課題の設定	２時間
③講評および課題の再設定	１時間（本時）
⑤情報の収集と読み取り・分析	２時間
⑥発表準備	１時間
⑦発表会	１時間
⑧探究活動のまとめ	１時間

６．教材観

高等学校学習指導要領解説では、公共のＣ項目「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」の指導の例として、「(1)課題の設定、(2)情報の収集と読み取り・分析、(3)課題の探究、(4)自分の考えの説明、論述」と進めていくことが示されている。

これを受けて、本単元では国連の「世界幸福度調査（World Happiness Report)2019－2021）で、日本が 54 位（先進国中最下位）になっていることを主題材とし、日本社会が抱える問題とは何なのかを考え、どうすれば改善・解決することができるかということを生徒に探究させる。当該調査は６つの指標（①一人当たり国内総生産（GDP)、②社会保障制度、③健康寿命、④人生の自由度、⑤他者への寛容さ、⑥国への信頼度）を基に順位が付けられている。ただし、本単元ではこれらの指標にこだわらず、ニュース等で目にしたことや生徒一人ひとりが日々感じていることから敷衍し、広く日本社会の課題について探究させたい。

探究活動の流れとしては、最終的に外部講師の方へ探究成果をみていただき、その後の探究活動に活かしていくことをゴールとする。

初めに日本社会の問題点を生徒に挙げさせてから、問題関心が近い生徒同士で班を組み、日本社会の問題点の抽出（課題の設定)、解決・改善のための提言（仮説）と、それらを裏付けるために必要な資料・データはなにかを検討する。

これらを事前に外部の講師の方にお送りし、見ていただいたうえで次の授業内で講評をいただく。講評を受け、各班が課題を再設定する（「本時の内容」)。これまでの教科チーム会議において、探究活動は『課題の設定』が鍵であると助言を受けた。生徒が自ら探究する課題を見出し『課題の設定』ができれば、その後の活動がスムーズにいくはずである。その意味においても、外部の方の意見を聞き、『課題の決定』を的確なものとしたいと考え、本時の内容で授業構成した。

その後、資料・データを調査したうえで、解決に向けてできることを具体化し発表する。最後に、探究活動の内容について考えたこと、探究活動自体について感じたことをまとめ、あらためて講師の方へお送りし、適宜コメントをいただき、生徒の探究活動の質向上に努めたい。

７．生徒観・指導観

１年Ａ組の生徒は、活発な発言はあまり見られないものの、社会的事象への関心が高く、学習意欲は大いに見られる。本単元の学習で、自ら課題を設定・調査し、事実を基に発表する経験をすることで、主体的に考え自主的に発言できる力を身に着けられるようにしたい。

８．本時の目標

(1)　全ての個人が最大限に尊重され、一人ひとりの幸福が実現できる社会の形成と維持に必要なことを、他者の意見を取り入れながら多面的・多角的に捉えることができる。

（主体的に学習に取り組む態度）

(2)　課題の解決に向けて、自分で考えたことや他者の意見を踏まえて考察したことを取り入れながら、相手に分かりやすく表現したり、まとめたりすることができる。

（思考力、判断力、表現力等）

９．本時の指導計画

段階	学習内容と学習活動	学習形態	教師の指導・支援 （◆◇評価方法）
導入（15分）	1　学習内容について確認 2　講師の先生のご紹介 3　全体への講評・自分の班への講評・他班への講評を聞き、参考になった点をまとめる	全体	・ZOOM 画面と、生徒作成のスライドを用意 ・講評内容記入用のグーグルフォームを用意 ◇グーグルフォームの記入内容
展開①（10分）	4　外部講師と教師との間で、探究全般についてやり取りをする 内容　・お金があれば幸せか？無いと不幸か？ ・労働環境について ・生徒の提出内容を揺さぶるようなこと　など	全体	・講師の問いに対して、教師が逡巡する姿をみせる
展開②（25分）	5　課題の再設定 ・全体説明 ・本時の目標	全体	◇観察 ◆スライドの内容
	「解決への見通しを持った課題を設定することができる」		
	・再設定 (1)課題とその設定理由の再検討 (2)解決方法について仮説を立てる (3)必要な資料・データの検討	グループ	・外部講師とは引き続き Zoom で接続し、生徒が質問を行えるようにする（講師へ質問する前に、教師が許可を出す）

◇「評定に用いる評価」　◆「学習改善につなげる評価」

10．評価規準

(1)他者の意見を参考にしながら、日本の社会が抱えている課題や問題点を主体的に考察し、追求しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

(2)探究課題について相手にしっかりと伝わるように意識して話し合いをし、探究活動の計画を自分たちの言葉でまとめることができる。（思考・判断・表現）

11．ICT 活用について

(1)各班が設定した課題等のスライドを外部の講師へ事前にお送りし、改善点等を挙げていただく。本時では、ZOOM を利用して講師の方と教室を繋ぎ、改善点等を全体・各班へ講評していただく。生徒は、講評内容をグーグルフォームに記入し、今後の探究活動に活かす。本単元の終わりには、探究活動の成果をスライドとグーグルフォームにまとめ、講師の方へお送りしコメントをいただく。

(2)その他にＩCT 活用として、アイデア出しの場面にジャムボード、関心のあるテーマアンケートとしてグーグルフォームを利用し班分けの参考にした。